

令和元年11月25日

谷口委員

重複していたら大変恐縮なのですが、資料の3ページの被災農業者に対する支援のところ、15号のときにも補正で対応していただいたのですが、15号のその後の執行状況と、それから、今回、19号のほうで1億2,400万円ということですが、どの辺を想定しているのか、どういう被害状況なのか、そのあたりを確認させていただきたい。

農業振興課長

15号の対応状況ですが、10月18日に国の説明会があり、都道府県、市町村、関東農政局管内ということで実際やっていますが、市町村あるいはJA等が参加しています。また、それを受けて、神奈川県でも、10月25日に県内の市町村やJA等を集めて、県のほうで説明会を開催しております、国のほうからも参加いただいている状況で、今、15号については、要望取りまとめを、国の指示を受けて、第1回、第2回、また第3回が12月中旬に取りまとめということで、市町村に調査をかけている状況です。

次に、19号ですが、11月19日に国の関東農政局主催の説明会がありました。19号については、これから、神奈川県で、具体的にどのくらいになるか、要望調査ということで取り組んでいます。

なお、被害の状況ですが、事業対象は主に農業用ハウスになりますが、今のところ、被害の状況が多くなっているのは、横浜市、藤沢市、茅ヶ崎市などが見込まれているところです。

谷口委員

わかりました。なるべく早く皆さんのもとへ届くようにしていただきたいということと、それから、今回、ハウスですが、農作物の関連で、参考としてお伺いしたいのですが、塩害についてですが、海岸に近いところでは想像しやすいのですが、結構、内陸部でも、台風で巻き上げた雨が内陸部で降って、塩害が出るというケースもあると伺っていますが、今回は、塩害については、15号、19号それぞれどのような感じだったか、もし御存じでしたら伺います。

農業振興課長

15号については、非常に強い風だったのですが、風の向きが北の方向寄りということで、いわゆる塩水の吹き上げ等、塩害の影響は余りない状況でした。19号については、三浦のダイコン、キャベツ等で、若干、塩害の症状が出ているということですが、風そのものでの傷みもあわせたプラスアルファで、その後は、病気等防ぐための農薬の散布あるいは回復を促す肥料など、そういったことを指導している状況です。

谷口委員

わかりました。私からは以上です。